



LDAP 認証の設定

Cisco CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- LDAP System
- LDAP Directory
- LDAP Authentication

LDAP Directory の情報と LDAP Authentication の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリとの同期化が Cisco CallManager Administration の LDAP System ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)

LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP System Configuration ウィンドウにある **Enable Synchronizing from LDAP Server** チェックボックスの設定によって、管理者が認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、管理者は、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を変更することができません。LDAP の同期化の詳細については、『*Cisco CallManager システムガイド*』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** **System > LDAP > LDAP Authentication** の順に選択します。
 - ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 14-1 を参照)。
 - ステップ 3** **Save** をクリックして、変更内容を保存します。
-

追加情報

P.14-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP 認証の設定値

表 14-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、P.14-4 の「関連項目」を参照してください。

表 14-1 LDAP 認証の設定値







フィールド	説明
エンドユーザの LDAP 認証	
Use LDAP Authentication for End Users	LDAP ディレクトリとの認証をエンドユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、LDAP System Configuration ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合のみです。
LDAP Manager Distinguished Name	LDAP Manager のユーザ ID を入力します。このユーザは、当該 LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
LDAP Password	LDAP Manager のパスワードを入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
Confirm Password	LDAP Password フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
LDAP User Search Base	ユーザ検索ベースを入力します。Cisco CallManager は、ユーザをこのベースで検索します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
LDAP サーバ情報	
Host Name or IP Address for Server	企業ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。

表 14-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
LDAP Port	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
Use SSL	<p>セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
Add Another Redundant LDAP Server	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p> <p> (注) このボタンにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>

関連項目

- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーションユーザとエンドユーザ」
- [アプリケーションユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)